

I 業務実績の概要

独立行政法人国際交流基金の平成 15 年度の業務実績について、予算、組織、事業面の改革の取り組み、主な実績、当面の課題の概要は以下の通りである。

1 改革の取り組み

平成 15 年度は理事長のリーダーシップ、各理事のサポートのもと、以下の管理運営上の決定を行った。

(1) 予算

- 18 年度までに管理費を一割削減させるために、15 年度において以下の対応をとった結果、年度**一般管理費は前年度比 7% (△3.3 億円) の削減**を行った。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ ロンドン事務所移転等による海外事務所借料 20%削減 (△約 1.7 億円)・ 京都事務所移転等による国内事務所借料 6%削減 (△約 0.5 億円) |
|--|

(2) 組織

- 事業の達成目標の明確化と内外のニーズへの的確な対応のため、事業部門を 3 グループに整理統合する一方、情報提供などのサービスを強化するため新たに情報センターを設置することを柱とする**機構改革を平成 16 年 5 月に実施することを決定**し、諸準備を進めた。同機構改革においては、課の数を 2 割削減することとした。
- 上記機構改革に伴い、理事の業務分担を「事業分野」担当制から「地域」担当制に変更することとした。
- 国際交流基金がさらに国民にとって開かれたものとするため、平成 16 年度において**海外事務所長（北京）の公募、新設の情報センター長の民間登用の方針を決め**、諸準備を行った。また国際交流基金の業績評価の客観性を高め、評価のあり方等について検討するため「評価に関する有識者委員会」を設置すべく規程整備等の準備を行った。

(3) 事業

- 「大学院留学スカラシップ」「日本研究講師等スカラシップ」を 15 年度に**廃止**するとともに、16 年度において 14 年度比 14%減となるプログラ

ム構成を作成した。

プログラム数

14年度 223 → 15年度 222 → 16年度 193 (予定)

- 平成 16 年度予算編成、事業計画策定プロセスにおいて、必要性、有効性、効率性などの観点から事業分野ごとにメリハリをつけた予算配分を行うことにより、事業実施のさらなる効率化を図ることとした。例えば以下の事業については 16 年度において 40%以上の大幅な縮小を行うこととした。

「海外日本語講座助成」： 15 年度 77,374 千円 → 16 年度 35,282 千円

「日本研究スタッフ拡充助成」：15 年度 63,338 千円 → 16 年度 26,637 千円

「日本研究リサーチ会議助成」：15 年度 97,236 千円 → 16 年度 58,022 千円

2 主な実績

各分野の実績については、「Ⅱ 平成 15 年度 項目別業務実績」の通りであるが、主な実績を以下の通り概括する。

(1) 文化芸術交流の促進

- **日本文化の先端と伝統のつながりを提示する**ために、パリ日本文化会館で平成 15 年 10 月から平成 16 年 1 月まで開催した「ひととロボット展」は、現代美術展のみならず、企業ロボットの实演、シンポジウム、ロボットアニメの映画上映、舞台公演、ロボットコンテストなど多彩な催しを組み合わせ、約 2.5 万人の観客を集め、**主要紙ル・モンド紙に 2 度にわたって報道される等、内外で注目を集めた。**
- **若者層を主たる対象とした「J-ASEAN ポップス」**は外交的に重要な周年事業「日本アセアン交流年 2003」の目玉事業としてアセアン 3 カ国で**実施され**、1 万人の入場者があり、また各国の国営テレビ等で放映され（推定視聴者数 226 万人）、極めて注目度の高いプロジェクトであった。また、「日本アセアン交流年 2003」を記念し、日本とアジア各国の市民レベルの交流事業 40 件に助成したほか、イラク復興を支援するために日本／イラク親善サッカーゲームについて、イラク・ナショナルチームの渡航費

を助成、日本・イラクの友好を盛り上げた。同試合の観戦者は3.8万人。

- 海外29カ国で、「プロジェクトX」等日本のテレビ番組を各国テレビ局に提供した。イラク国営テレビの「おしん」放映については、「苦境を乗り越えて今日の発展を遂げた日本人の努力に敬服する」等の声がイラク政府高官から市民に至るまで多数聞かれるとの在イラク大使館からの報告もあり、**イラクにおける日本認識の向上に貢献**した。
- その他、海外21カ国で日本映画祭を開催、海外のべ9カ国で日本映画上映会の開催経費を助成する等、質の高い非商業ベースの文化芸術交流事業を実施。これらの事業に対する注目は極めて高く、内外のメディア（新聞、雑誌、テレビ等）で2,900件以上の関連報道が行われたことが確認されている。

(2) 海外における日本語教育、学習への支援

- **日本語教育情報提供に対するアクセス件数は、15年度下半期44万件で、半年で年間目標50万件近くに達し、15年度上半期のアクセス件数約22万件と比較しても倍増**となった。
- 海外38カ国、88都市で**日本語能力試験を実施**。215,593人が受験し、**受験者数は14年度比で11%の伸び**を示した。
- 内外の日本語教育専門家のために開設した「みんなの教材サイト」は登録者数13,000人、**下半期の総アクセス数51万件（前年度下半期25万件から倍増強）**に達しており、内外日本語教育関係者の活発な情報交換が行われている。
- その他、海外のべ34カ国に日本語教育専門家を派遣し、日本語国際センターにおいて、276人の海外日本語教師に対する招へい研修を実施、関西国際センターにおいて、海外の外交官、公務員、司書、研究者等のべ136人の招へい研修を実施した。いずれの事業においても裨益者アンケートの結果によれば、88%～96%の高い満足度を得ることができた。

(3) 海外日本研究及び知的交流の促進

- 日本、中国、韓国の東アジア3カ国が共通に抱える今日的課題解決のための意見交換を行ない、**リーダー間の信頼醸成を図るため、日・中・韓**

における有識者・各界リーダーを10名ずつソウルに集めた国際会議を開催した。参加者の80%から会議は有意義、との評価を得ている。

- 日本と東南アジアにおいて、政策立案と世論形成に影響力を持つメディア関係者、政策形成者及び研究者が一同に会し、率直な討議・意見交換をすることを目的に、インドネシアにて実施した「アジア・メディア・フォーラム」等、日本とアジアの多層的なネットワーク形成をめざす知的交流セミナー3件の企画開発に関与し、一部経費助成を行った。これら支援について、助成先のいずれの機関からも支援は有意義、との評価を得ている。
- **日本と中東の知的対話の強化をめざす「日本・アラブ対話フォーラム」をエジプトで共催**し、日本、エジプト、サウジアラビア三カ国の有識者がイラク問題等喫緊の課題について討議、基金は、日本側専門家と随員を派遣した。同フォーラムにおいては、文化の対話、中東地域の社会経済開発、イラク支援の領域において、各国政府の具体的政策に結びつくような提言がまとめられ、各国政府に報告された。
- その他、2003年9月に実施された**中東文化交流・対話ミッションの対総理提言のフォローアップ**として、日本国内で、シンポジウム「**日本と中東イスラーム世界ー共生の時代ー**」を開催した他、海外40カ国の研究者に対するフェローシップの供与（100件）、中国教育部との協定に基づく北京日本学研究中心に対する包括的支援の実施、日米交流150周年を記念するシンポジウムをはじめとする、日米間の対話を促進するセミナー・共同研究（15件）の実施・支援など幅広い事業を実施した。

(4) 国際交流情報の収集・提供及び国際文化交流担い手への支援等

- 国際交流基金ウェブサイトを運営し、国際交流に関する情報、国際交流基金に関する情報を提供している。**15年度下半期のアクセス件数は、年間目標数100万件を上回り、115万件のアクセスがあった。**
- 国際交流基金賞、国際交流奨励賞等の顕彰を行ない、これら事業に関する掲載記事数は30件にのぼり、受賞者の業績、優れた取り組みについての情報を内外に周知することができた。
- 海外19都市にある**海外事務所の図書館に、16.7万人の来館者があり、**

2.3 万件の照会回答を行った。

- ホームページを開設している 14 海外事務所について、291 万件強のアクセスがあった。特にソウルでは、118 万件のアクセスがあった。

3 当面の課題

(1) 他の担い手との連携調整

今日の国際文化交流事業は、政府、地方自治体、民間団体等、多様な担い手が関与しており、日本全体で、これら多様な担い手の連携調整を進め、国際文化交流の効果を最大限引き出す必要がある。また、こうした連携調整を政府部内において誰が担うのか検討が望まれる。

(2) 国際交流基金事業の評価手法

国際交流基金の業績評価にあたっては、単年度での業績のみならず、中長期的な視点から業績を評価していくことが重要であり、こうした評価の手法を国際交流基金自身が開発していくことが肝要と考えている。

(3) 評価の進め方

業績評価を実施するにあたっては、内外のデータ収集等膨大な作業が発生しており、基金のみならず在外公館、関係団体の負担も増大していることから、こうした作業量を軽減するための工夫が必要であると同時に、今後の業務の改善、計画策定等に活用していく。